府立大塚高等学校
校長　坂井　正洋

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

全員が輝ける、サポート充実のスポーツを柱とした地域の総合拠点校として地域の将来を担う人材やトップアスリートを育成する学校。
○　生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
○　激動する社会で活躍できる学力や社会人として必要な礼儀等を身に付ける学校
○　互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
○　将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献・社会的自立のできる人材を育成する学校

２　中期的目標

１　確かな学力の向上
(1) 生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの活用。
ア　学力生活実態調査や教育産業による学力分析システムで生徒自身が学力定着度を確認するための生徒１人１台端末の活用。
イ　プレゼンテーションソフトや英語学習ソフト「BASE in OSAKA」等の各種アプリケーションソフトを活用し英語力の向上をはかる。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:81.2% R５:89.6% R６:90.0%→R９:100%)
＊生徒の英語検定資格取得者の増加。(R６:準２級３名、３級８名→R９:準２級、３級合わせて 50 名超)
(2) 教員の授業力の向上
ア　授業力向上委員会を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を推進することで読解力・思考力・表現力を育成する。
イ　生徒による授業評価の活用。教員の公開授業、研究授業を含めた校内研修の推進。外部者への授業公開。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:60.2% R５:75.5% R６:75.5%→R９:85%超)
(3) 大塚プレミアム（１・２年補習・講習）・大塚プレミアム＋（３年進路向け講習・講習）の組織的な実施。
ア　各教科・進路指導部・教務部が連携した、講習・補習の実施。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目を追加し肯定的回答率を向上させる。(R５:72.0% R６:68.6%→R９:80%超)
(4) ICT 機器を活用した授業の推進
ア　学習支援クラウドサービスを利用し、教員１人１台端末を活用した授業力向上教員研修・学習会の実施、好事例の共有。
＊教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:90.9% R５:97.2% R６:100%→R９:100%維持)

２　高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす
(1) 生徒に自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実。
ア　職業調べや探究活動を通して、将来の進路や生き方について考える力を育成する。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:89.1% R５:91.9% R６:92.3%→R９:95%超)
(2) チーム大塚による生徒支援体制の確立。
ア　教育産業による学力分析システムを活用した学力の分析会を実施。統合 ICT による情報の共有化。
イ　進学指導力向上のための模試・学力生活実態調査の結果分析会の充実。
＊進学率（４年制大学・短期大学・専門学校等）の向上（R４:89.1% R５:83.4% R６:84.8%→R９:90%超)
＊就職内定率の 100%維持（R４:100% R５:100% R６:100%→R９:100%維持)
ウ　SC、SSW 等の外部人材の活用による教育相談・生徒支援体制の充実。外部機関とのスムーズな連携体制の確立。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:66.7% R５:74.9% R６:74.2%→R９:80%超)

３　人としての豊かな見識と情操を育てる
(1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の育成。
ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動の持続と学習時間の保障。
＊部活動加入率 80%超を維持しながら学力の向上をめざす。教育産業による生活実態調査で部活動と学習の両立の肯定的回答率の向上。
(R５:42.1%R６:42.5%→R９:56%超)
イ 生徒会自治会活動の活性化により「自主的な学校行事」のさらなる促進。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:79.5% R５:90.4% R６:88.6%→R９:90%超)
ウ　松原市や松原警察署、消防署と連携した、安全指導・清掃活動・ボランティア活動の推進。１部活動１ボランティア運動を実施。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:56.0% R５:73.5% R６:71.2%→R９:80%超)
(2) 「道徳教育推進教師」を中心とした道徳教育の充実による、豊かな人権感覚・望ましい生活態度・社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。
ア　人権教育推進委員会による、教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:95.0% R５:92.2% R６:93.3%→R９:95%超)
イ 「遅刻ゼロ」運動、「自分からあいさつ」の推進。
＊遅刻総数を前年度比５%ずつ減少させる。(R４:357 回 R５:519 回 R６:681 回→R９:500 回以下)
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:94.1% R５:95.0% R６:94.8%→R９:95%超維持)
ウ　多様性を育み、論理的にものを考えて自分の考えを的確に伝えることのできる力の育成。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(R４:89.9% R５:92.1% R６:91.5%→R９:90%超維持)

４　体育・スポーツの地域の総合拠点校としての発展と地域交流の促進
（１）活発な部活動と体育科の専門性を活かし、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。
ア　松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。
イ　「大塚 CUP」など、地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。
（２）オリンピック等の国際大会出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。
ア　スポーツ講演会の開催
イ　スーパーインストラクター招聘事業の継続
（３）地域におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。
（４）首席、ミドルリーダーが中心となり、出前授業、学校説明会、中学校訪問など広報活動を推進する。
＊学校説明会延べ参加者数（R４:936 名 R５:982 名 R６:1006 名→R９:1000 名超維持)

５　チーム大塚として課題解決にあたる教員集団の確立
(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む雰囲気の醸成。
＊教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率を毎年５%ずつ引き上げる。(R４:51.5% R５:89.2% R６:85.2%→R９:90%超)
(2) 質の向上・平準化による業務の効率化。
＊教職員の時間外勤務時間の平均を前年度より減少させ、時間外勤務時間月 80 時間以上の職員の延べ人数を減少させる。
(R４:49.44H R５:53.05H R６:47.72H → R９:40H 未満、R４:100 人 R５:116 人 R６:102 人→R９:40 人以下)

府立大塚高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和７年 12 月実施分］	学校運営協議会からの意見
○「中期的目標１　確かな学力の向上」について、以下の項目を検証した。 【学習指導】 （生徒）「授業はわかりやすくて楽しい」　肯定率　68.4%（昨年度比 7.1Ｐ減） 「授業について、教え方は工夫されている」　74.4%（昨年度比 7.9Ｐ減） 「朝学や補習・講習は役立っている」　68.9%（昨年度比 0.3Ｐ増） 「コンピューターや視聴覚教材などを使って発表する機会がある」 91.6%（昨年度比 1.6Ｐ増） （教員）「生徒の到達度に合わせて、学習指導の方法や内容について工夫している」 95.2%（昨年度比 1.9Ｐ増） 「コンピューター等の ICT 機器を教科の授業などでも活用している」 88.4%（昨年度比 11.6Ｐ減） 「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」 95.3%（昨年度比 8.2Ｐ増） 昨年度に引き続き、「授業力向上委員会」を中心に「ICT 推進委員会」とも連携し、授業見学および研究協議に取り組んだが、計画していた取り組みを十分に行うことができなかった。また教職員の意識としては「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」が昨年度以上の肯定率を示したが、生徒には伝わっていないと考えられる。定員割れの影響もあり、生徒の学力や学習意欲にも幅が見られるので、さらなる工夫が必要である。 【生活指導】 （生徒）「学校生活についての先生の指導は納得できる」79.9%（昨年度比 2.5Ｐ増） （保護者）「学校の生徒指導の方針に共感できる」　75.4%（昨年度比 1.6Ｐ減） （教員）「この学校では生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」 90.7%（昨年比 2.8Ｐ減） 生徒指導への理解については、生徒・保護者ともに数値はいぜん高い値を維持しているものの、一昨年度から徐々に減少している。生活指導での厳しい指導は本校の特色でもあるが、生徒の実態を踏まえた対応も検討する必要があると考える。 【進路指導】 （生徒）「ホームルームなどで将来の進路と生き方について考える機会がある」 89.9%（昨年度比 2.4Ｐ減） 「模擬試験のデータを学習や生活習慣に活かしている」74.7%（昨年度比 3.4Ｐ増） （保護者）「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」87.0%（昨年度比 3.7Ｐ増） 「教育情報について提供の努力をしている」84.8%（昨年度比 1.2Ｐ増） （教員）「生徒一人ひとりが興味・関心、適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」　86.4%（昨年度比 4.0%Ｐ減） 「模擬試験の結果（データ）を進路指導に活かしている」　67.4%（昨年度比 10Ｐ減） 「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」 86.0%（昨年度比 10.8Ｐ増） 生徒・保護者の意識は、今年の進路指導の取り組みに対して一定の評価が見られるが、教員の意識としては、取り組みが不十分であると感じている。教員の意見を聞く機会を作る必要があると考える。 【生徒支援】 （生徒）「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」 78.7%（昨年度比 2.2Ｐ増） （保護者）「先生は子ども・保護者の悩みや相談に親身になって応じてくれる」 92.0%（昨年度比 11.6Ｐ増） （教員）「教育相談体制が整備され、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」 73.2%（昨年度比 17.2Ｐ減） 昨年度から生徒支援委員会を立ち上げ、教育相談を含めた生徒支援の体制づくりに取り組んでいることが、生徒・保護者の意識につながっていると考える。一方、教員の意識については、肯定的な意見が昨年度と比較して大きく減少しており分析が必要である。 【学校運営】 （教員）「この学校の教育活動には生徒や保護者のニーズにあった特色がある」 93.0%（昨年度比 7.0Ｐ減） 「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 83.7%（昨年度比 16.3Ｐ減） 「初任者等、経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」 62.8%（昨年度比 23.9Ｐ減） 「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」 81.4%（昨年度比 15.3Ｐ減） 学校運営についての教員の評価は非常に厳しいものとなっている。教員の意見を聞く機会も増やし学校運営に反映させ、各教員が意欲的に校務に取り組み、その能力を十分に発揮できる環境づくりを行うことが必要であると考える。	【第１回（R7.6.16）】 ○学校経営計画の内容及び教育活動に関わって ・AI について取り組んでいることがあれば紹介してほしい →　特に現時点では取り組みは行っていない。将来的には AI によって自分で学習する仕組みが急速に普及すると考えられる。 ・自転車通学のマナーについて、一時停止や逆走などルールを守らない生徒が多いと地域での小学生への朝の見守りから感じる。また、挨拶をしない生徒も多い。 →　状況を見ながらの交通マナーの徹底と朝の挨拶の発信を行っていきたい。 【第２回（R7.11.17）】 ○授業見学を終えての意見 ・インプットだけでなくアウトプットが課題。自分たちから動く内容を ・先生と生徒の距離感が変化してきていると感じた ・寝ている生徒がいたのが残念 ○校務分掌、体育科からの報告を受けて ・スポーツを通して地域との交流をお願いしたい ・自転車通学のマナー依然よくない。 【第３回（R8.2.9）】 ○令和７年度学校評価について ・承認される ○令和８年度学校経営計画について ・承認される ○次年度に向けて委員の方からいただいた意見 ・今後、地域の中学校と連携できることがあれば協力したい。 ・生徒指導面では生徒・保護者の理解をもらえるように努力してほしい。 ・自転車等の交通マナー、地域交番や警察署とも連携をお願いします。 ・学力の幅が広がっているように感じる。少人数展開や学力別の講座編成を考えてほしい。 ・PTA の保護者どうしの情報共有で見守りの輪を広げたい。

府立大塚高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
１　確かな学力の育成	（１）生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの活用	（１）ア・学力生活実態調査、ポートフォリオを活用しデータを学習や生活習慣に活かすことのできる能力を行く育成する。 イ・英語学習ソフト「BASE in OSAKA」等のソフトを活用し英語力の向上をはかり、国際交流につなげる。	（1）ア・生徒向け自己診断「模擬試験のデータを学習や生活習慣に活かしている」の肯定率を前年度より上げる。[71.4%] イ・生徒の英語検定資格取得者の増加。[準２級３名、３級８名]	（１）ア・実力テスト結果や学力生活実態調査について、ポートフォリオの活用により振り返りを行った。生徒の肯定率は 74.7%で前年度を上回った。（〇） イ・校内受験を年３回予定していたが、希望者が少なく第１回のみ実施した。英語検定資格取得者は２級１名、準２級１名、３級１名であった。（△）
	（２）教員の授業力の向上	（2）ア・授業アンケートの振り返りシートを授業力向上に活かし、「主体的・対話的で深い学び」を授業で実践する。 イ・年２回授業見学月間を設定し、研究授業・研究協議を行う。教科を超えたテーマ（観点別学習状況の評価）による研究授業の実施。オンデマンドによる授業見学の実施。	（2）ア・生徒向け自己診断「授業について教え方は工夫されている」の肯定率 80%超維持。　[82.3%] イ・教職員向け自己診断「生徒の実態を踏まえ、指導方法の工夫・改善を行っている」の肯定率 80％超維持。[89.3%]	（２）ア・生徒の肯定率は 74.4%で目標には届かなかった（△） イ・年２回の授業見学月間と授業力向上委員会による研究授業、研究協議を行った。肯定率は 95.3%と数値が大きく向上した。（◎）
	（３）大塚プレミアム・プレミアム＋の組織的な実施	（3）ア・各教科・進路指導部・教務部が連携して、講習・補習を組織的に実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、必要な内容を講習として設定する。	（3）ア・生徒向け自己診断「理解度に応じて補習や講習が行われている」の肯定率を前年度より上げる。[68.6%]	（３）ア・昨年に引き続き、大塚プレミアム（朝学・補習・講習）と大塚プレミアム＋（進学講習・公務員向け講習・看護医療系講習）を実施したが、肯定率は 68.9%で昨年度をわずかではあるが上回った。（〇）
	（４）ICT機器を活用した授業の推進	（4）ア・生徒及び教員１人１台端末を活用した授業実践に向けた研修・学習会の実施や好事例を共有することで教員の授業力を図る。	（4）ア・教職員向け自己診断「ICT 機器を教科の授業などで活用している」の肯定率 100%維持。　[100%]	（４）ア・ICT の活用については 88.4%で昨年度の肯定率を維持できなかった。（△）
２　高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす	（１）生徒自ら将来像を描く力の育成・キャリア教育の充実	（1）ア・探究活動や職業調べ、卒業生の講話を通して将来の進路や生き方について考える力を育成する。 イ・進路指導部による教育産業と連携した学力分析会を行い、統合 ICT を活用して情報有効活用する。 ウ・「タブレット端末を活用した進路指導マニュアル」を作成し、研修・学習会を実施し教員の進学指導力の向上を図る	（1）ア・生徒向け自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 90%超維持。　[92.3%] イ・進学率（４年制大学・短期大学・専門学校）90%超。　[84.8%] ・就職内定率 100%維持。　[100%] ウ・教職員向け自己診断「生徒の興味・関心、適正に応じてきめ細かい指導を行っている」の肯定率 90%超維持。[96.4%]	（１）ア・探究活動や職業調べ、大学・専門学校や職業などの分野別説明会を行った。生徒の肯定率は 89.9%で高い数値を示した（〇） イ・昨年度に引き続き、進路指導部による教育産業と連携した学力分析会を全体会と学年ごとに行った。進学率（４年制大学・短期大学・専門学校）は 85%で昨年度並みの数値は維持できたが目標の数値に届かなかった。（△） ・学校斡旋就職の内定率は 100%（〇） ウ・実力考査後にタブレットを活用し、学力及び学習習慣・学習時間のデータを学年・クラス・個人の３方向から分析し指導に生かせるようにしたが肯定率は 86.4%と目標の数値を大きく下回った。（△）
	（２）チーム大塚による生徒支援体制の推進	（2）ア・SC・SSW 等の外部人材の活用による教育相談・生徒支援体制の充実と生徒支援のための各種研修（ヤングケアラー等）の実施。 イ・進路情報などを進路だよりや学年通信、HP 掲載することで、保護者へ発信する。	（2）ア・生徒向け自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 75%超維持。[76.5%] イ・保護者向け自己診断「学校は教育情報について提供の努力をしている」の肯定率 85%超。　[83.6%]	（２）ア・生徒支援委員会の立ち上げ、SC・SSW との連携、教育相談室の開設回数の増加を図った。生徒の肯定率は 76.7%で目標を達成できた。（〇） イ・進路関係の情報はもちろん、学校の教育情報について、学校 HP や連絡ツール、SNS などを使って配信した。肯定率は 84.8%で昨年の数値を上回っている。現在の取り組みを継続していきたい。（〇）
３　人としての豊かな見識と情操を育てる	（１）協力協働の社会的精神の育成	（1）ア・「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動で学習との両立をめざす。 イ・「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。 ウ・松原市や松原警察と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動や清掃活動を推進する。	（1）ア・教育産業による生徒向け生活実態調査「学習・部活動の両立ができている」の肯定率 50%超。　[42.5%] イ・生徒向け自己診断「大塚祭等学校行事は工夫されている」の肯定率 90%超。　[88.6%] ウ・生徒向け自己診断「授業や部活動を通して地域の方々と交流する機会がある」の肯定率 75%超。　[71.2%]	（１）ア・部活動に加入している生徒のうち、「部活動と学習の両立ができている」と回答した生徒は47.5%で昨年度の数値より上昇している。学習習慣の定着のための取り組みを今後も継続していきたい。（〇） イ・数値は 89.6%で、昨年度の数値を上回った。次年度も生徒の自主的関与を促すさらなる仕掛けを考えたい。（〇） ウ・今年度は自転車マナー強化月間の啓発活動などで松原警察と連携した。また、２年生選択科目「地域課題探究」の授業では地域の連携を積極的に行った。肯定率は 72.6%で昨年度の数値を上回った（〇）

府立大塚高等学校

	（２）社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	（２）ア・人権教育推進委員会・道徳教育推進教師による「大塚あったかマップ」に従った人権 HR や体験学習を実施する。 イ・「遅刻ゼロ」運動を全校統一して指導を行うことにより遅刻を減少させる。 ・「自分からあいさつ」を推奨するため、教職員が率先してあいさつを行う。 ウ・行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、多様性を育み、論理的物事を考える力、自分の考えを適切に伝えることのできる力の育成に努める。	（２）ア・生徒向け自己診断「ホームルーム等で人権について学ぶ機会がある」の肯定率 90%超維持。 [93.3%] イ・遅刻総数前年度比５％減少。 [681 回] ・生徒向け自己診断「挨拶や言葉遣い時間を守るなどの社会性の育成に努めている」の肯定率 90%超維持。 [94.8%%] ウ・生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 90%超維持。 [91.5%%]	（２）ア・部落問題を中心に様々な人権問題について学習を行った。肯定率は 94.2%で昨年度を上回る数値となった。（○） イ・遅刻総数は１、２学期の総数が 743 回（△） ・朝の登校指導、生徒会の挨拶運動、マナー指導などの取組みを行ったが肯定率は 89.9%で目標の数値に至らなかったが高い数値を示している。（△） ウ・学校の教育活動全般を通して社会のルールや命の大切さについて生徒にアプローチしたが、生徒の肯定率は 85.7%で目標の数値を達成できなかった。（△）
４ 体育・スポーツの地域の総合拠点校としての発展と地域交流の促進	（１）スポーツ交流やボランティア活動の推進	（1）ア・トップアスリートを招聘した「スポーツ講演会」や運動部活動における「スーパーインストラクター招聘事業」などを実施し、運動部部員の意識を高める。 ・高校スポーツ界の夢の舞台である全国高校総体への出場をめざし、さらなる競技力の向上に努める。 イ・本校の教育資源を活用し、地元小学生を対象にした「ふれあい大塚スポーツ教室」を実施し、スポーツ交流を推進する。 ・中学校運動部を招いた「大塚 CUP」を実施し、スポーツ拠点校としての交流を推進する。	（1）ア・全校生徒対象の「スポーツ講演会」及び運動部活動生徒対象の「スーパーインストラクター招聘事業」の継続実施 [19 回] ・全国高校総体など全国大会への複数クラブ出場 [陸上競技部] イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の参加者の増加 [約 100 名] ・地域中学校の運動部を招待した大会「大塚 CUP」等の開催 [1700 名]	（１）ア・全校生徒対象の「スポーツ講演会」には大阪体育大学の土屋教授を講師にメンタルトレーニングを実施した。「スーパーインストラクター招聘事業」は今年度も 19 回実施した。（○） ・陸上部の全国高校総体出場に加え、近畿大会では男子バレーボール部、女バレーボール部、女子バスケットボール部（ベスト 16）、ソフトテニス部（団体戦ベスト 16）が出場を果たした。（○） イ・松原市内の近隣の小学生を招いて、スポーツ教室を開催。77 名の小学生が運動部員と一緒にスポーツを楽しんだ。（△） ・「大塚 CUP」をはじめ、各クラブが中学校運動部を招いた大会等に 1700 名を超える中学生の参加があった。（○）
	（２）広報活動の促進	（2）ア・学校 HP や学習支援連絡網の効果的な運用を図るため、首席を中心に中学生等への情報発信に努める。 ・本校で実施する学校説明会（年間４回実施）の充実を図る。 ・全教員による中学校訪問を実施し、本校の教育活動の周知を図る。	（2）ア・学校説明会参加者数の増加。 [1006 名] ・志願者数の増加。 [体育科:112 名、普通科 123 名] ・学校説明会、オープンスクール合わせて６回実施。 [６回] ・中学校訪問数 150 校以上 [156 校]	（２）ア・体育科説明会 266 名、ワンデー大塚 229 名、年４回実施の体育科・普通科合同説明会は 450 名で学校説明会の参加者数は 945 名であった。（△） ・令和８年度入学者選抜の志願者数は体育科 94 名、普通科 109 名で前年度より 34 名減少した。（△） ・学校説明会は昨年度と同様に計６回実施した（○） ・本校に多く在籍している生徒の出身中学校を中心に進学の可能性のある中学校 137 校を訪問し広報活動を行った。（△）
５ チーム大塚として課題解決にあたる教員集団の確立	（１）全員で取り組む雰囲気の醸成	（1）ア・グループワークによる自主的な研修や学習会を計画する。教科・分掌の枠を超えたミーティングを定期的に実施する。	（1）ア・教職員向け自己診断「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定率 85%超維持。 [85.2%]	（１）ア・肯定率は 81.4%で高い数値を示してはいるが、昨年度の数値を下回り、目標の数値には届かなかった。教職員が意欲的に取り組める環境づくりが必要である。（△）
	（２）業務の効率化	（2）ア・「働き方改革」に基づいて、学校閉庁日・全校一斉退庁日を設置する。「部活動の在り方に関する方針」に基づき部活動における長時間勤務を縮減する。	（2）ア・教職員の時間外勤務時間の月平均を前年度より減少させる。 [47.72H] ・時間外勤務月 80 時間以上の教職員を前年度より半減させる。[延べ 102 人]	（２）ア・時間外在校等時間は４～12 月までで 46.51H（△） ・時間外在校等時間 80 時間以上の教職員は延べ 125 人（△）